

令和3年度

**青梅市放課後子ども教室推進事業
検証・評価報告書**

青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会

< 目 次 >

第1章 事業の結果

1 実施状況

- (1) 実施期間と回数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) スタッフ数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 学校区協議会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3 学童との一体・連携実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章 児童・保護者およびスタッフを対象としたアンケート結果

1 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2 項目ごとの結果

- (1) 共通事項（参加登録児童）・・・・・・・・・・ 6
- (2) 保護者・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (3) 参加児童・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (4) スタッフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第3章 検証・評価の方法

1 検証・評価の方法及び視点・・・・・・・・・・ 16

2 検証・評価結果

- (1) 実施状況について
 - ア 期間と回数について・・・・・・・・・・ 16
 - イ 事業内容について・・・・・・・・・・ 17
 - ウ スタッフ数について・・・・・・・・・・ 17
- (2) 学童との一体・連携開催について・・・・・・・・ 18
- (3) 学校区協議会について・・・・・・・・・・ 18

3 検証・評価の今後について・・・・・・・・・・ 19

参考資料

- ・ 青梅市放課後子ども教室推進事業運営員会設置要綱・・・・・・・・・・ 20
- ・ 運営委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- ・ 青梅市放課後子ども教室推進事業実施要綱・・・・・・・・・・・・・・ 24

第1章 事業の結果

1 実施状況

(1) 実施機関と回数

実施校	実施期間	実施回数
第一小	4月14日から1月19日	16回
第二小	4月19日から1月24日	24回
第三小	4月14日から1月19日	10回
第四小	4月21日から1月19日	30回
第五小	4月7日から2月7日	78回
第六小	4月14日から1月26日	14回
第七小	4月14日から1月24日	47回
成木小	4月14日から1月19日	17回
河辺小	4月14日から1月19日	13回
新町小	6月23日から12月15日	10回
霞台小	4月14日から1月19日	17回
友田小	6月2日から3月2日	20回
今井小	4月14日から1月19日	19回
若草小	4月21日から12月15日	10回
藤橋小	4月14日から2月16日	20回
吹上小	4月12日から2月2日	24回

※新型コロナウイルス感染症の拡大のため、各学校と協議の上、緊急事態宣言およびまん延防止等重点措置適用期間中において、休止期間があった（4月28日～6月18日、7月12日～9月29日、1月26日～3月18日）。

(2) 事業内容

実施校	主な活動場所名称	主な活動内容
第一小	校庭・体育館	バスケットボール・鬼ごっこ・しっぽ取り・バドミントン・宿題・工作
第二小	校庭・体育館・ 体育館2階	ドッジボール・バドミントン・フリスビー・縄跳び・工作・ブロック・宿題

実施校	主な活動場所名称	主な活動内容
第三小	校庭・体育館	トッシーボール・バドミントン・サッカー・縄跳び・フラフーフ°・frisbee・工作
第四小	視聴覚室・ランチルーム・体育館・校庭	卓球・サッカー・ボードゲーム・ブロック・宿題・工作・紙芝居・読み聞かせ
第五小	校庭・中庭・体育館・合科室	サッカー・トッシーボール・鉄棒・写し絵・人形遊び・読書・宿題・工作・虫取り
第六小	体育館・校庭	バスケットボール・バドミントン・ビーチバレー・卓球・宿題・砂遊び・工作・折り紙・鬼ごっこ
第七小	教室・体育館・校庭	トッシーボール・バドミントン・ボール遊び・宿題・工作・卓球・ボードゲーム
成木小	体育館・校庭・図書室	バドミントン・卓球・ボール遊び・外遊び・宿題・折り紙・トランプ°・読み聞かせ
河辺小	体育館・校庭・図書室	バドミントン・バスケットボール・卓球・縄跳び・工作・宿題・読書
新町小	体育館・校庭	トッシーボール・トッチビー°・折り紙・ぬりえ・宿題・工作・砂遊び・オセロ
霞台小	教室・体育館・校庭	バスケットボール・フラフーフ°・囲碁・将棋・工作・数字パズル°・けん玉・宿題
友田小	体育館・校庭	バスケットボール・バドミントン・サッカー・卓球・宿題・読書・工作・ゲーム

実施校	主な活動場所名称	主な活動内容
今井小	体育館・校庭	トッシーボール・バドミントン・卓球・縄跳び・鉄棒・囲碁・チェス・宿題・ぬりえ・工作・ゲーム
若草小	体育館	卓球・トッシーボール・バスケットボール・バドミントン・宿題・工作・ゲーム・トランプ
藤橋小	体育館・校庭	バドミントン・トッシーボール・バスケットボール・コマ・けん玉・工作・宿題・トランプ・ゲーム
吹上小	体育館・校庭	バドミントン・トッシーボール・バスケットボール・コマ・縄跳び・オセロ・お手玉・工作・宿題

(3) スタッフ数

実施校	コーディネーター		教育活動推進員		教育活動サポーター		開催時スタッフ数
	配置数	開催時	配置数	開催時	配置数	開催時	
第一小	1	0	2	2	12	4	6
第二小	1	0	2	2	5	5	7
第三小	1	0	2	2	6	4	6
第四小	1	0	2	2	15	5	7
第五小	1	0	2	2	10	5	7
第六小	1	0	2	2	3	2	4
第七小	1	0	2	2	10	4	6
成木小	1	0	2	2	6	2	4
河辺小	1	0	2	2	5	5	7
新町小	1	0	2	2	6	6	8
霞台小	1	0	2	2	4	4	6
友田小	1	0	2	2	4	4	6
今井小	1	0	2	2	8	5	7

若草小	1	0	2	2	5	5	7
藤橋小	1	0	2	2	6	5	7
吹上小	1	0	2	2	7	4	6

2 学校区協議会開催状況

実施校	開催回数	実施校	開催回数
第一小	1回	河辺小	1回
第二小	1回	新町小	1回
第三小	1回	霞台小	2回
第四小	2回	友田小	1回
第五小	0回	今井小	2回
第六小	0回	若草小	2回
第七小	1回	藤橋小	1回
成木小	1回	吹上小	3回

3 学童との一体・連携実施状況

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一体・連携の実施はなし。

第2章 児童・保護者およびスタッフを対象としたアンケート結果

1 概要

(1) 実施時期

令和3年10月

(2) 対象者

事業に参加登録している児童とその保護者および各事業に従事しているスタッフ

(3) 回収状況

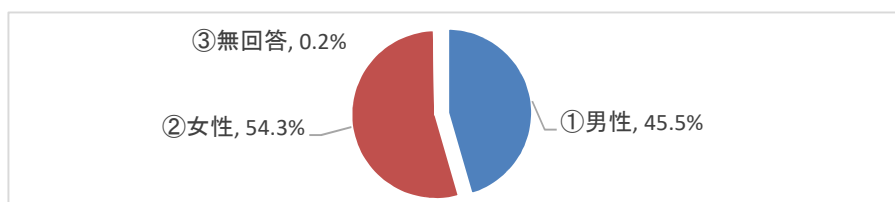
- ・児童・保護者 2,129名中811名(38.0%)
- ・スタッフ 148名中87名(58.8%)

2 項目ごとの結果

(1) 共通事項 (参加登録児童)

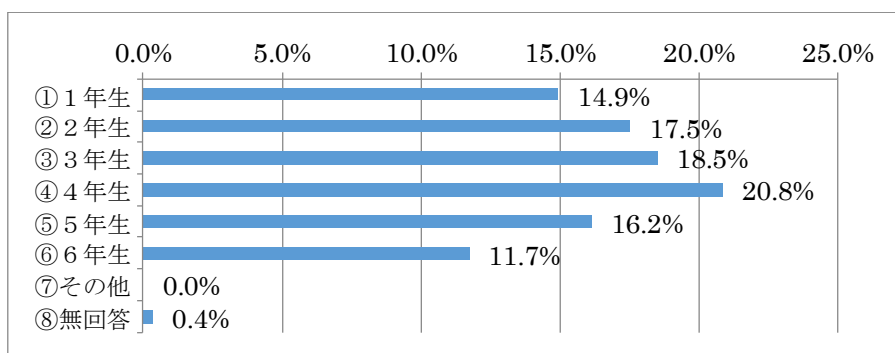
ア 性別

1. 性別	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①男性	369	45.5%	+1.9%
②女性	440	54.3%	-1.8%
③無回答	2	0.2%	-0.1%
計	811	100.0%	



イ 学年

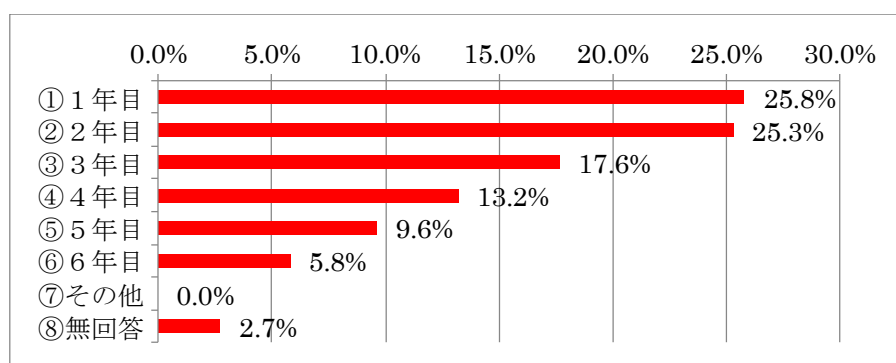
2. 学年を教えてください。	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①1年生	121	14.9%	+1.3%
②2年生	142	17.5%	-1.3%
③3年生	150	18.5%	-0.8%
④4年生	169	20.8%	-0.1%
⑤5年生	131	16.2%	+4.7%
⑥6年生	95	11.7%	-3.8%
⑦その他	0	0.0%	±0.0%
⑧無回答	3	0.4%	+0.1%
計	811	100.0%	



ウ 登録年数

3. タヤケランドに登録して何年目ですか。

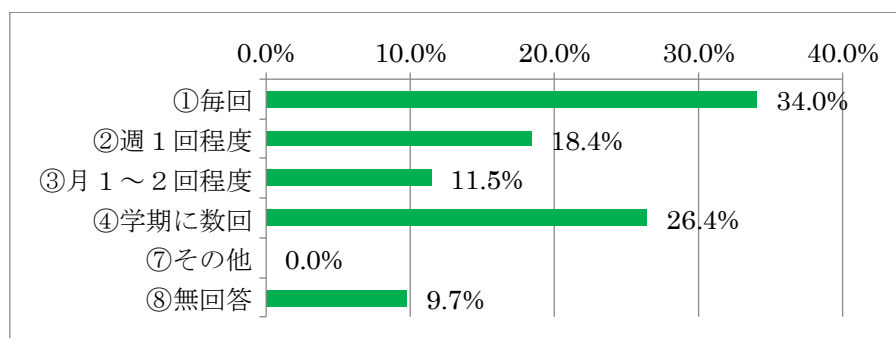
	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①1年目	209	25.8%	-0.6%
②2年目	205	25.3%	-1.7%
③3年目	143	17.6%	-4.4%
④4年目	107	13.2%	+2.9%
⑤5年目	78	9.6%	+3.0%
⑥6年目	47	5.8%	+0.2%
⑦その他	0	0.0%	-0.3%
⑧無回答	22	2.7%	+0.9%
計	811	100.0%	



エ 参加頻度

4. 参加頻度はどれくらいですか？

	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①毎回	276	34.0%	+10.1%
②週1回程度	149	18.4%	+3.0%
③月1～2回程度	93	11.5%	-4.5%
④学期に数回	214	26.4%	-9.9%
⑦その他	0	0.0%	-1.0%
⑧無回答	79	9.7%	+2.3%
計	811	100.0%	

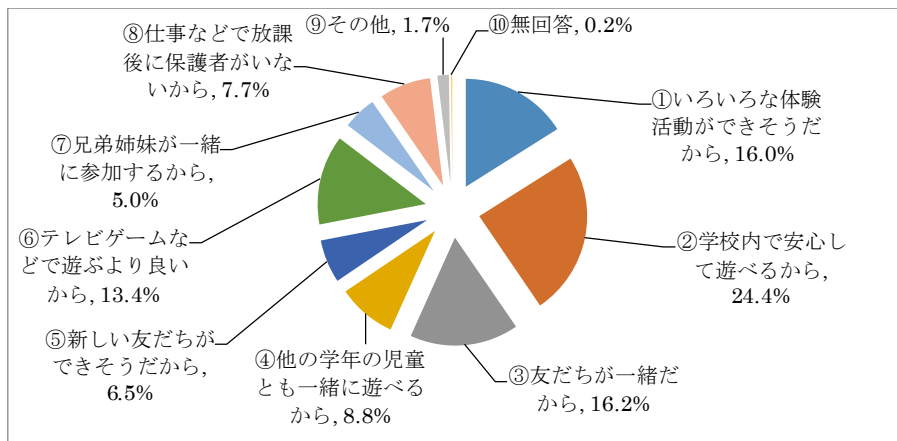


(2) 保護者

ア 参加理由

1. タヤケランドに参加させている理由はなんですか?(複数回答可)

	回答数	割合	対令和元年度増減割合
①いろいろな体験活動ができそうだから	412	16.0%	+1.2%
②学校内で安心して遊べるから	627	24.4%	-1.3%
③友だちが一緒だから	417	16.2%	+0.8%
④他の学年の児童とも一緒に遊べるから	226	8.8%	-0.8%
⑤新しい友だちができそうだから	166	6.5%	+0.1%
⑥テレビゲームなどで遊ぶより良いから	344	13.4%	+1.0%
⑦兄弟姉妹が一緒に参加するから	128	5.0%	+0.9%
⑧仕事などで放課後に保護者がいないから	197	7.7%	-1.6%
⑨その他	44	1.7%	-0.5%
⑩無回答	6	0.2%	+0.1%
計	2,567	100.0%	



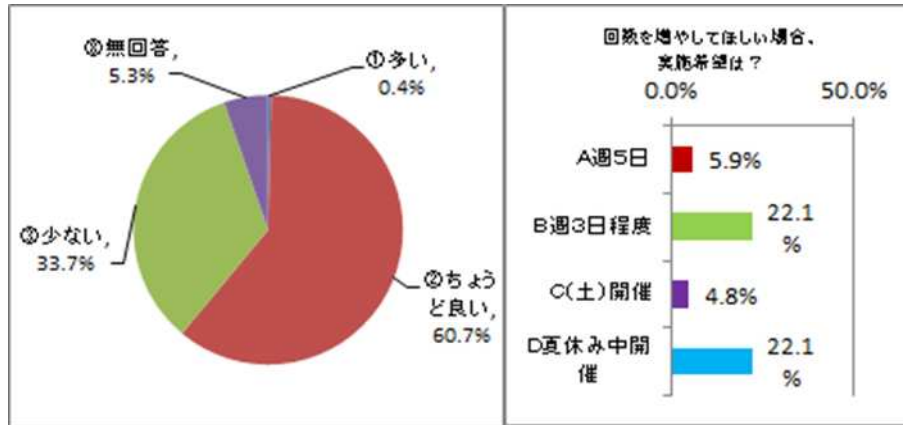
イ 実施回数

2. 実施回数についてどう思いますか。

	回答数	割合	対令和元年度増減割合
①多い	3	0.4%	-0.5%
②ちょうど良い	492	60.7%	-0.1%
③少ない	273	33.7%	+1.4%
⑧無回答	43	5.3%	-0.8%
計	811	100.0%	

回数を増やしてほしい場合、実施希望は？

A週5日	48	5.9%	+0.1%
B週3日程度	179	22.1%	+2.3%
C(土)開催	39	4.8%	+3.0%
D夏休み中開催	179	22.1%	+10.8%



ウ タヤケランドに参加させてよかったと思うこと、お子さんが変わった事（自由記述）

- ・お友達と一緒に宿題をやったり、遊んだり、とても楽しそうでした。
- ・学年の違う子たちとのふれあいで、大きい子にいろいろ教えてもらったり、小さい子に優しくしたりするということを学べていると思います。
- ・タヤケランドで作った物を家でもう一度作り、工作が好きになった。
- ・体を使ってめいっぱい遊ぶので、ストレス発散にもなっている。生活が充実していて生きいきしている。
- ・通学路の違う子たちと遊べるきっかけになった場所でした。はじめてしった遊びや遊び方も体験できて、居場所が1つ増えて少し自信がついたようです。

エ 事業に対する意見等

- ・子どもが楽しく安全に遊べる場所を作って頂き、ありがとうございます。
- ・色々なお友達ができたら良いと思っています。交流ができるような遊びをして頂けると、子どもも楽しくなるんじゃないかなと思います。
- ・新型コロナの影響で、楽しみにしていたタヤケランドが中止になってしまい、子供は残念がっています。
- ・知らない遊びなど教えてくれたり、体を使って体力もつけて帰

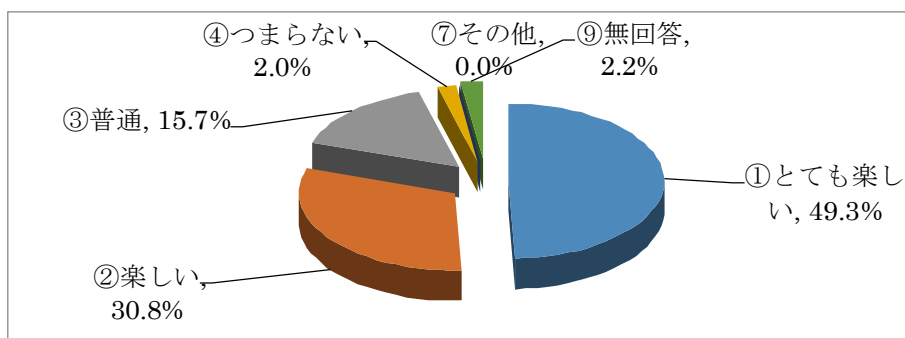
ってくるのでとても助かり、ありがたいです。

- ・コロナが終息したら学童のお友達と多く交流し遊べるようにして頂きたい。

(3) 参加児童

ア 事業は楽しいか

3. タヤケランドは楽しいですか？	回答数	割合	対令和元年度増減割合
①とても楽しい	400	49.3%	+12.2%
②楽しい	250	30.8%	-4.3%
③普通	127	15.7%	-6.3%
④つまらない	16	2.0%	-1.5%
⑦その他	0	0.0%	±0.0%
⑨無回答	18	2.2%	+2.2%
計	811	100.0%	



イ その理由（自由記述）

(ア) とても楽しい、楽しい

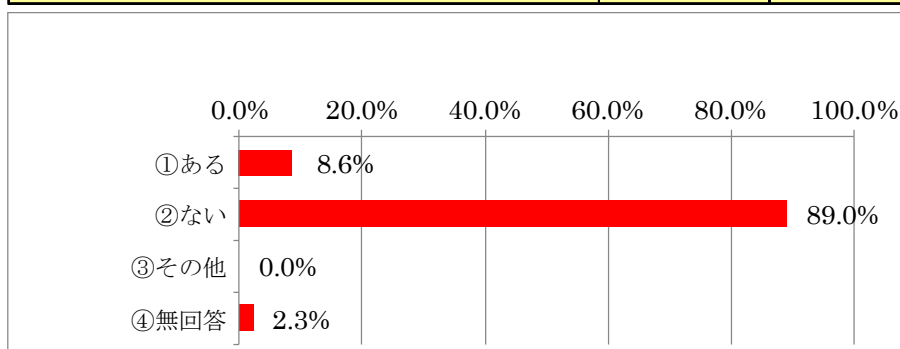
- ・友達とたくさん遊べるから。
- ・おもしろい遊びや運動を思いきりできるから。
- ・色々遊び道具があるから。

(イ) 普通、つまらない

- ・コロナで遊べる範囲（内容）が減ってしまった。
- ・仲良くあそべる友達があまりいないから。

ウ 嫌な思いをしたことがあるか

4. タヤケランドで嫌な思いをしたことがありますか？	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①ある	70	8.6%	-2.0%
②ない	722	89.0%	+1.4%
③その他	0	0.0%	-0.2%
④無回答	19	2.3%	+0.8%
計	811	100.0%	

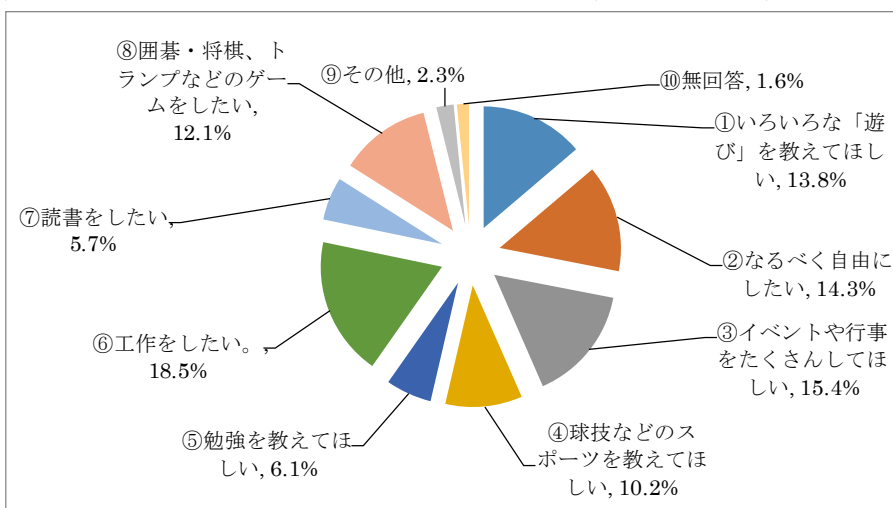


エ その内容（自由記述）

- ・友達とけんかをした。
- ・みんなが使ってる時に自分が使う事が出来ない時。
- ・遊びやゲームのルールを守らない人がいる。
- ・上の学年の子が仲間に入れてくれない。
- ・けがをした。

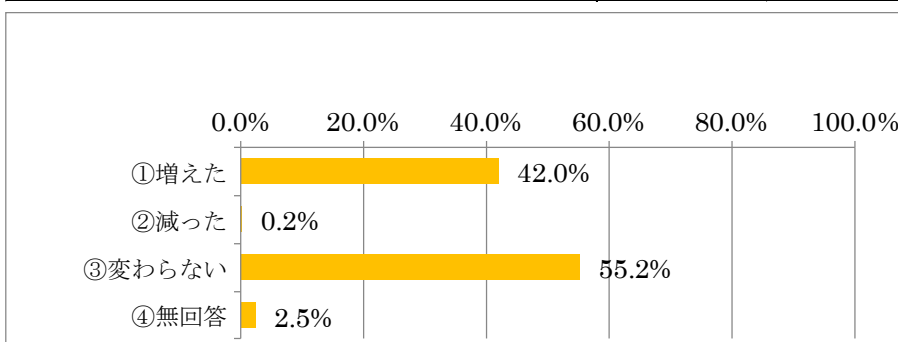
オ 今後どんなことをしたいですか

5. タヤケランドで今後どんなことをしたいですか？ (複数回答可)	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①いろいろな「遊び」を教えてください	298	13.8%	+0.6%
②なるべく自由にしたい	308	14.3%	-0.4%
③イベントや行事をたくさんしてほしい	332	15.4%	-0.3%
④球技などのスポーツを教えてください	221	10.2%	-0.4%
⑤勉強を教えてください	132	6.1%	-0.1%
⑥仕事をしたい。	399	18.5%	+0.2%
⑦読書をしたい	124	5.7%	-0.4%
⑧囲碁・将棋、トランプなどのゲームをしたい	262	12.1%	+0.3%
⑨その他	50	2.3%	-0.4%
⑩無回答	34	1.6%	+1.0%
計	2,160	100.0%	



カ 友達が増えたか

6. タヤケランドで友だちは増えましたか？	回答数	割合	対令和元年度 増減割合
①増えた	341	42.0%	-2.0%
②減った	2	0.2%	+0.0%
③変わらない	448	55.2%	+1.5%
④無回答	20	2.5%	+0.5%
計	811	100.0%	



(4) スタッフ

ア 性別

1. 性別(アンケート回収:87件)	回答数	割合(%)
①男性	7	8.0%
②女性	79	90.8%
③無回答	1	1.1%
計	87	100.0%



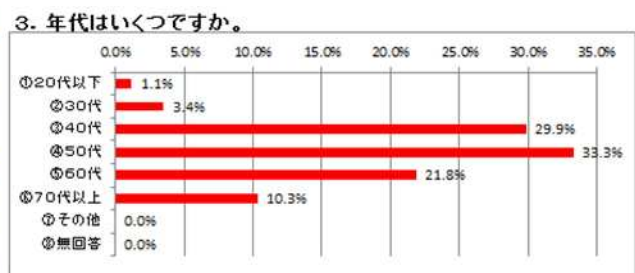
イ スタッフに登録して何年目か

2. スタッフに登録して何年目を教えてください。	回答数	割合(%)
①1年目	11	12.6%
②2年目	12	13.8%
③3年目	12	13.8%
④4年目	7	8.0%
⑤5年目	11	12.6%
⑥6年目	11	12.6%
⑦7年目以上	23	26.4%
⑧無回答	0	0.0%
計	87	100.0%



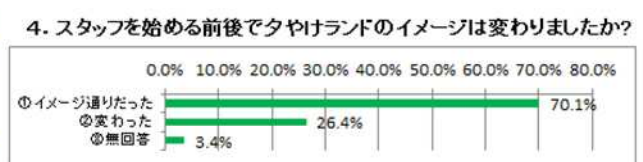
ウ 年代は

3. 年代はいくつですか。	回答数	割合(%)
①20代以下	1	1.1%
②30代	3	3.4%
③40代	26	29.9%
④50代	29	33.3%
⑤60代	19	21.8%
⑥70代以上	9	10.3%
⑦その他	0	0.0%
⑧無回答	0	0.0%
計	87	100.0%



エ スタッフを始める前と、始めた後で夕やけランドのイメージは変わったか

4. スタッフを始める前後で夕やけランドのイメージは変わりましたか?	回答数	割合(%)
①イメージ通りだった	61	70.1%
②変わった	23	26.4%
③無回答	3	3.4%
計	87	100.0%



オ どのような違いがあったか(自由記述)

- ・子供たちが皆活発で良く遊び、また学校の宿題も夕やけランド中に自主的に進んで取り組んでいる姿に大変驚きました。
- ・思っていたよりも、人との関わりや、工作等で知育要素があったり、社会性を学べるどころだなと思いました。
- ・始める前のイメージより、かなり気力体力がいるんだと感じて

いる。

- ・学校によって、考え方に違いがあること。

カ 子どもたちと接していて、驚いたことや、嫌な思いをしたことがあるか

5. 子ども達と接していて、驚いたこと、嫌な思いをしたことはありますか？	回答数	割合(%)
①ない	48	55.2%
②ある	38	43.7%
⑩無回答	1	1.1%
計	87	100.0%

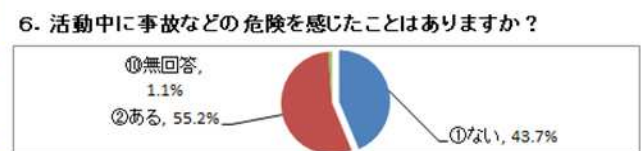


キ それはどのようなことか（自由記述）

- ・子供達の言葉遣いが荒い事、暴言。
- ・危ない事など注意しても聞かない。
- ・家庭状況などによって、難しい子ども達が多いこと。
- ・子供達の成長を感じる時や思いもしない行動を取る時。時には反抗的な態度を取られる事もありますが、嫌な思いと言うほどではありません。

ク 活動中に事故などの危険を感じたことはあるか

6. 活動中に事故などの危険を感じたことはありますか？	回答数	割合(%)
①ない	38	43.7%
②ある	48	55.2%
⑩無回答	1	1.1%
計	87	98.9%



ケ 再発防止に向けて心がけていることは（自由記述）

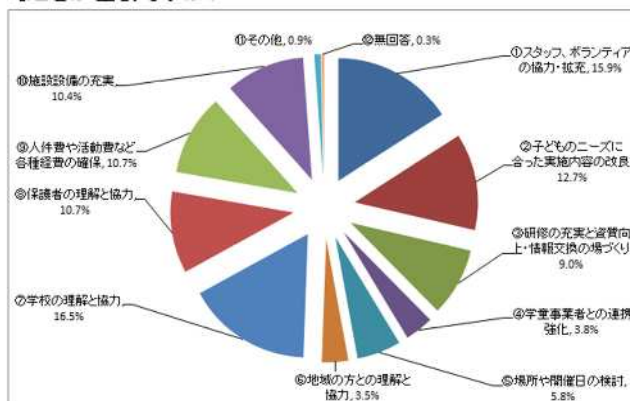
- ・全体を見る様にして、危ない遊び方をしている子供には早めに注意したり、場所の移動を伝えたりしている。
- ・スタッフと情報を共有し改善点を考える。
- ・手が出せる距離にいないこと。危険予測をすること。
- ・高鉄棒・のぼり棒・ジャングルジムなど高いところは特に注意している。

コ 今後、夕やけランドの取り組みをより発展させていくためにはどのような事が重要だと思うか

(複数回答あり)

7. 今後、夕やけランドの取り組みをより発展させるために、どんなことが重要ですか？	回答数	割合(%)
①スタッフ、ボランティアの協力・拡充	55	15.9%
②子どものニーズに合った実施内容の改良	44	12.7%
③研修の充実と資質向上・情報交換の場づくり	31	9.0%
④学童事業者との連携強化	13	3.8%
⑤場所や開催日の検討	20	5.8%
⑥地域の方との理解と協力	12	3.5%
⑦学校の理解と協力	57	16.5%
⑧保護者の理解と協力	37	10.7%
⑨人件費や活動費など各種経費の確保	37	10.7%
⑩施設設備の充実	36	10.4%
⑪その他	3	0.9%
⑫無回答	1	0.3%
計	346	100.0%

7. 今後、夕やけランドの取り組みをより発展させるために、どんなことが重要ですか？



サ 夕やけランドに対するご意見等（自由記述）

- ・いつも楽しく活動させていただいています。コロナ禍で子ども達となかなか遊べなくて残念です。早く安心、安全の確保ができて再開できるよう、お祈り申し上げます。
- ・夕やけランドが、コロナ禍の子供達のストレスを少しでも発散できる場所であるといいなと思っています。しかし、密にならず、接触を避け、感染防止対策を徹底しながらの開催は、準備や消毒など、スタッフの仕事の手間、時間もかかり、また、気持ちの面でも平常時と違い不安や負担は大きいと感じました。ワクチン接種を優先してできたことは嬉しく思いました。ありがとうございました。
- ・コロナ禍ということもあり、体力があり活発な児童の安全を守るために、スタッフは、ある程度、児童と行動を共に出来、見守るための許容力も必要だと思う。
- ・夏場に教室内が暑くなり過ぎるので、空調設備を考えて欲しい。
- ・保護者の方々がどのように感じておられるのかを知りたい。保護者のニーズに合った運営を目指し、場合によっては開催日の増設も視野に入れても良いと思う。

第3章 検証・評価の方法

1 検証・評価の方法及び視点

令和3年度実施状況および、アンケート結果をうけて、大まかな動向を検証し、評価を行う。また、必要に応じて、令和元年度のアンケート結果と比較・検証を行う。

評価を行う際は、

- ・保護者・児童が望むニーズに合っているか。
- ・保護者・児童が望む放課後子ども教室の実施形態になっているか。
- ・児童にとって過ごしやすい場所になっているか。
- ・スタッフのニーズに合った事業になっているか。
- ・スタッフの危機管理意識とその対応は正しいか。

以上の点を重視して評価することとする。

2 検証・評価結果

(1) 実施状況について

ア 期間と回数について

週3回実施が3校、週2回実施が1校、週1回実施が12校となっている。週3日は、月、水、金曜日、週2回は月、水曜日。週1回は全校水曜日の実施となっている。水曜日の授業時間が短いため各校水曜日を実施日としている。

期間や回数については、前年度中に学校に実施可能日を調査し決定している。

週の実施回数については、毎年夏に学校及びPTAに実施回数の希望について調査している。

保護者へのアンケートからは、ちょうど良いと回答した割合が約60.7%となっており、半数以上は現状の回数で満足していると思われるが、一方で少ないと回答した割合が約33.7%となっており、「夕やけランドに対する意見」からは回数増や夏休みの実施を希望する保護者の声が見られた。保護者のニーズに近付けるような実施回数となるよう学校と調整していただきたい。

イ 事業内容について

各校使える場所が限られている中で、安全に出来るプログラムをコーディネーターが考え、実施している。

「夕やけランドは楽しいですか」という質問に対し、80.1%の児童が、とても楽しいまたは楽しいと回答している。前回調査より7.8%増加しており、楽しめるプログラムづくりにコーディネーターが努めている成果が出ていると思われる。

また、「夕やけランドで今後どんなことをしたいですか」という質問では工作が前回に引き続き1番多く、2番目にイベントや行事をたくさんしてほしいとなっていた。工作やイベントの充実が求められている結果であると思われる。現状でも楽しいと思う児童が80%を締めているので、おおむねプログラムは充実しているのとらえることもできるが、工作のアイデアを他の夕やけランドと情報交換をしたり、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みながらイベントを検討したりする等、児童のニーズにあったプログラムを提供する努力を続けるべきと考える。

なお、「今後、夕やけランドの取り組みをより発展させるために、どんなことが重要ですか」という質問には、「施設設備の充実」の回答が10.4%であった。引き続き、補助金等を活用し、安心安全な居場所づくりの事業のための施設設備の充実に努めてほしい。

ウ スタッフについて

各校の児童数や、特別な配慮を必要とする児童の数等を鑑みて当日のスタッフ数を決定している。

「子どもたちと接していて、驚いたことや、嫌な思いをしたことがありますか」という質問には43.7%があると回答していた。スタッフには、採用時、現場の状況を見学していただいた上で業務を引き受けていただいている。しかし、児童に対し、想像以上の対応を迫られているのではと捉えることができる。今後も、スタッフが安心して従事できるよう、努めてほしい。

「活動中に事故などの危険を感じたことはありますか」という質問でも、55.2%のスタッフがあると回答していた。児童が

自由に活動する場であるため、常に危険と隣り合わせの現場であると思われる。「再発防止に向けて心がけていること」では“見守り、声掛け強化” “人との距離をとるためのスペース確保” など各教室で工夫し、危機管理に対応していることがうかがわれる。

「今後、夕やけランドの取り組みをより発展させるために、どんなことが重要ですか」という質問には、「スタッフ、ボランティアの協力・拡充」の回答が15.9%であった。今後も引き続きスタッフ同士で協力し合うとともに、スタッフの負担が軽減され安全安心な運営が担保されるよう考慮した人員配置に努めてほしい。また、保護者の理解と協力が重要であるという回答が10.7%あり、引き続き保護者からの理解と協力を得られるよう、保護者への情報発信や出席確認カード等を活用した保護者とのコミュニケーションを行うなど努めてほしい。

(2) 学童との一体・連携開催について

放課後子ども総合プランでは「放課後子ども教室を実施している全学校において、令和2年度以降も引き続き、週1回程度の一体型および連携型を実施していく。」となっているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一体型および連携型の実施を全教室中止とした。

今後の開催については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、各校ごとに学校、学童および放課後子ども教室で協議してほしい。

(3) 学校区協議会について

放課後子ども総合プランでは、「放課後児童クラブおよび放課後子ども教室の一体的または連携による事業を実施する際の共通プログラムを企画するには、放課後児童クラブの指導員と放課後子ども教室のコーディネーターが企画段階から連携することが必要であり、このため、学校区ごとに、学校関係者も含め毎月1回程度の検討会を開催することとする。」としているが、一体型および連携型の実施を中止していることから、学校区協議においても、数回程度の開催実績となった。

しかし、回数は少なかったものの、協議会を通じて、新型コロナウイルス感染防止対応の認識等について意見交換をすることができた。このことから、協議会が、円滑な実施に重要な役割を担っていることが推測される。

「今後、夕やけランドの取り組みをより発展させていくためにはどのような事が重要だと思うか」という質問に対して「学校の理解と協力」と回答した割合が16.5%あった。今後も定期的に協議会を実施することで、密に情報交換できる関係を構築し、学校および学童との良好な関係を継続してほしい。

3 検証・評価の今後について

令和3年10月において、児童、保護者およびスタッフからアンケートを実施し、放課後子ども教室の現場の声を聴いた。実施状況とアンケート結果から児童、保護者、スタッフの運営状況等を検証し、また、必要に応じて、前回のアンケート結果とも比較し、評価を行った。

よりよい放課後子ども教室になるよう、今後も2年に1度実施し、この結果がどのように反映されたか、またニーズにあった実施がされているか等を客観的に判断していく事としたい。

参考資料

青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会設置要綱

1 設置

地域社会において、心豊かで健やかな子どもたちをはぐくむ環境づくりおよび子どもたちの安全で安心な活動拠点作りの推進（以下「放課後子ども教室推進事業」という。）を図るため、青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2 所掌事項

委員会は、放課後子ども教室推進事業を円滑かつ計画的に実施するため、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 放課後子ども教室推進事業計画の策定に関すること。
- (2) 放課後子ども教室推進事業の実施にかかる安全管理に関すること。
- (3) 放課後子ども教室推進事業の広報活動に関すること。
- (4) 放課後子ども教室推進事業協力者の人材確保に関すること。
- (5) 放課後子ども教室推進事業の活動プログラムの企画に関すること。
- (6) 放課後子ども教室推進事業実施後の検証・評価に関すること。
- (7) その他放課後子ども教室推進事業の実施に関すること。

3 組織

- (1) 委員会は、次に掲げる者につき、青梅市教育委員会（以下「委員会」という。）が委嘱または任命する委員 13 人をもって組織する。

ア 社会教育課長

イ 学務課長

ウ 子育て推進課長

エ 学識経験者

オ 青梅市立小学校の校長または副校長の代表

カ 青梅市社会教育委員の代表

キ 青梅市青少年委員の代表

ク 民生・児童委員の代表

ケ 青梅市自治会連合会の代表

コ 青梅市立小学校 P T A 連合会の代表

サ 放課後児童クラブの事業者の代表

シ 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーターの代表

ス 放課後児童クラブの指導員の代表

(2) 委員会が必要と認める場合には、委員会に専門部会を置くことができる。

4 委員長の職務および代理

(1) 委員会に委員長および副委員長を置く。

(2) 委員長および副委員長は、委員の互選による。

(3) 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

(4) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代理する。

5 任期

委員の任期は、2年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

6 会議

(1) 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

(2) 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、または資料の提出を求めることができる。

7 報告

委員会は、必要に応じて委員会の検討経過および結果を教育委員会に報告する。

8 守秘義務および個人情報保護義務

委員は、職務上知り得た秘密を漏らし、または職務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、もしくは不当な目的に使用してはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

9 庶務

委員会の庶務は、社会教育担当課が処理する。

10 その他

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

11 実施期日

この要綱は、平成19年5月1日から実施する。

12 経過措置

- (1) この要綱の一部改正は、平成 20 年 4 月 1 日から実施する。
- (2) この要綱の一部改正は、平成 22 年 4 月 1 日から実施する。
- (3) この要綱の一部改正は、平成 23 年 4 月 1 日から実施する。
- (4) この要綱の一部改正は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。
- (5) この要綱の一部改正は、平成 27 年 5 月 25 日から実施し、同年 4 月 1 日から適用する。
- (6) この要綱の一部改正は、平成 30 年 4 月 1 日から実施する。

青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会委員名簿

ふりがな 氏名	選出区分
かざま 風間 みどり	学識経験者
かまた ひろし 鎌田 博志	青梅市立小学校の校長または副校長の代表
かねこ まりこ 金子 万里子	青梅市社会教育委員の代表
ひぐち あつし 樋口 篤史	青梅市青少年委員の代表
あおやぎ くみ 青柳 公美	民生・児童委員の代表
かとう ひろゆき 加藤 博行	青梅市自治会連合会の代表
きみず けん 木水 健	青梅市立小学校PTA連合会の代表
ふじもり こういち 藤森 光一	放課後児童クラブの事業者の代表
ほしの あやこ 星野 綾子	放課後子ども教室推進事業実施コーディネーターの代表
ほんま ともはる 本間 朝陽	放課後児童クラブの指導員の代表
えんどう やすひろ 遠藤 康弘	社会教育課長
えのきど さとし 榎戸 智	学務課長
かとう ひろゆき 加藤 博之	子育て推進課長

青梅市放課後子ども教室推進事業実施要綱

1 目的

この要綱は、青梅市放課後子ども教室推進事業（以下「事業」という。）の実施について必要な事項を定め、もって心豊かで健やかな子どもたちをはぐくむ環境づくりおよび子どもたちの安全で安心な活動拠点作りの推進に資することを目的とする。

2 実施主体

事業の実施主体は、青梅市教育委員会（以下「委員会」という。）とする。ただし、事業の一部を適当と認められる民間教育団体等に委託して行うことができるものとする。

3 事業内容

事業内容は次に掲げるものとする。

- (1) スポーツおよび文化活動
- (2) 地域住民との交流活動
- (3) 学習機会の提供
- (4) 放課後児童クラブとの一体的または連携による活動
- (5) その他必要とする活動

4 実施場所

事業は、市内小学校の余裕教室、校庭、体育館等の施設を利用して実施するものとする。ただし、委員会が認める場合は、社会教育施設その他多様な体験活動や交流活動等を安全・安心に行える場所で実施することができるものとする。

5 対象者

事業の対象者は、事業を実施する各小学校区内に居住する小学生とする。ただし、委員会が認める場合は、この限りではない。

6 実施期間

事業は、年間を通じて、放課後に実施するものとする。

7 指導者等

事業を円滑かつ安全・安心に実施するため、次の指導者等を配置する。

- (1) 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーター
- (2) 教育活動推進員
- (3) 教育活動サポーター

8 指導者等の役割

前項に規定する指導者等の役割は、次に掲げるものとする。

(1) 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーターは、事業の総合的な調整を行うとともに、次に掲げる役割を担うものとする。

- ア 保護者等に対する事業への参加の呼び掛け
- イ 学校および関係機関ならびに事業協力団体との連絡調整
- ウ ボランティア等地域の協力者の確保、登録および配置
- エ 活動プログラムの企画
- オ 放課後児童クラブ指導員との連絡調整
- カ 委員会との連絡調整

(2) 教育活動推進員は、学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心に実施するとともに、次に掲げる役割を担うものとする。

- ア 宿題、復習などの指導
- イ 学習方法のアドバイス

(3) 教育活動サポーターは、プログラムの実施のサポートを行うとともに、次に掲げる役割を担うものとする。

- ア 事業参加者の安全の確保
- イ 事業参加者の確認

9 学校区協議会

放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の一体的または連携による活動を円滑かつ計画的に行うため、小学校区ごとに学校区協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(1) 協議会は、次に掲げる3人をもって組織する。

- ア 放課後子ども教室推進事業実施コーディネーター
- イ 放課後児童クラブ指導員の代表
- ウ 小学校の代表

(2) 協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

- ア 活動計画に関すること。
- イ 活動プログラムの企画に関すること。
- ウ 安全管理に関すること。
- エ その他放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の実施者間で連携が必要な事項

(3) 協議会は、協議した内容を委員会に報告する。

10 その他

この要綱に定めるもののほか、事業の実施について必要な事項は、青梅市放課後子ども教室推進事業運営委員会に諮り、委員会が定める。

11 実施期日

この要綱は、平成 19 年 6 月 15 日から実施する。

12 経過措置

- (1) この要綱の一部改正は、平成 25 年 10 月 11 日から実施し、同年 4 月 1 日から適用する。
- (2) この要綱の一部改正は、平成 27 年 5 月 25 日から実施し、同年 4 月 1 日から適用する。
- (3) この要綱の一部改正は、平成 28 年 4 月 1 日から実施する。